



谷口 和弥
(拓政会) 議員



問 幕別町は「幕別町第6期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定し、今年4月から実施している。今後、幕別町がどのような長寿福祉社会像を策定し実現していくのか、以下の点について伺う。

(1) 介護保険入所施設等の利用者に向けての「介護保険負担限度額申請書」において、「銀行等」への残高等の調査を承認する「同意」を求めているが、この調査の実施状況について伺う。

(2) 一定以上の所得のある高齢者のサービス利用負担割合が2割負担となったことにより、本来必要なサービスの利用中止や利用回数の調整が行われることが危惧される。負担増となった高齢者の状況について伺う。

(3) 幕別町で2017年度から実施を予定している「総合事業」の基盤整備等の進捗状況について伺う。

町長 (1) 本町の平成27年11月末現在の利用者負担軽減の認定者数は336人だが、認定申請の際には、本人や配偶者が所有する全ての預貯金、有価証券等の残高の写しを添付してもらっているため、預貯金等の所有状況が把握できないといったケースはなく、金融機関等へ残高を照会した事例はない。

(2) 本町における平成27年11月末現在の2割負担の認定者数102人のうち、78人の方が居宅サービスや地域密着型サービス、施設介護等のサービスを利用しており、制度改正前と直近までの利用状況について個別に確認したが、利用を中止した方や利用回数に大きな変動があった方は見受けられなかった。

(3) 平成29年度からの総合事業の実施に向けて、現在、内部に検討会議を設置し、事業の内容について検討を進めている。

介護予防・生活支援サービス事業については、サービスの担い手の確保、地域資源の開発や掘り起こしの検討のほか、既存の介護事業者からの意見聴取、情報交換等

問 長寿社会を安心して迎ええられる町となるために

答 世代を超えて支え合う地域づくりを進めていく

を行うっており、給食サービスでは、減塩食や低カロリー食の導入を検討している。

一般介護予防事業については、地域サロンなどの住民主体の通いの場において、リハビリテーション専門職による介護予防の機能強化を促進したいと考えている。

問 ファイターズ応援大使の取組で最大の効果を

答 町民とともに町を盛り上げる有効な機会となるよう取り組む



問 プロ野球北海道日本ハムファイターズは、地域の住民との交流を図りながらまちづくり・まちおこしに寄与していく取り組みとして、毎年18市町村に「応援大使」となる選手を任命している。2016年は幕別町が応援大使派遣市町村に選ばれ、大谷翔平選手と市川友也選手が任命された。幕別町がこの取り組みを町の振興にどのように活用していくと考えているか伺う。



応援大使に選ばれた大谷翔平・市川友也選手

町長 今後の具体的な取り組み内容は、現在内部で検討しているが、今回の応援大使の活用は、マスメディアへの露出を生かした町のPRが可能となり、町の活性化につながる大きな機会であるのと同時に、北海道日本ハムファイターズの応援やイベントへの参加を通じて、町内でさまざまな人々の交流や子どもたちの健全育成、スポーツ振興など、多くの効果が期待されるものである。実施に当たっては、町民のアイデアを募集するなど、町民とともに幕別町を盛り上げる有効な機会となるよう取り組んでいく。